

参加者アンケート

会場参加者から

- プラットフォームの概念を理解できた。一方で、インクルーシブな環境実現のためには、いわゆる健常者が門戸を開くだけでなく、障害者側の障壁を取り除くことも必要だと感じた。
- アイヌ語ミニ講座が楽しかった。また、ドローンサッカーも興味があった。高等支援学校などでも体験させてあげて欲しい。
- それぞれの地域性、背景、環境が違うため、すぐに参考にしたりまねしたりしなくても良いと思うが、まずは様々な取組を知ることが大切であり、各実践は大変興味深く感じた。
- 毎年、楽しみにしている事業、今回は初めて会場で参加したが、やはりリアルで得られるものがあると実感した。想いのある人たちが集う空気のおかげで、前向きで温かくて、自然に集中でき、ポジティブに思考することができた。

オンライン参加者から

- つながりが大切なことが皆さんのお話から伝わってきた。「はじめから障害のある人とない人を分けなければ良い」というお話は、その通りだと思った。当事者としていろんな場面に参加し、見慣れてもらうことを続けて行きたい。
- どの実践も素晴らしく、これが広まっていくにはどうしたら良いかと考えていた。正解は出ないと思うが、せっかくなので、これまでのコンファレンスの成果としても、参加した各々がほんの小さなアクションでも、何か一つ新たな行動を促しても良かったかもしれない。
- 障害当事者として支援を必要としている状態で、将来社会に出て仕事や社会生活を送ることに対して漠然と不安を感じていたが、活躍されている先輩方のお話を聞いて、自分もどうにか自立した生活を実現したいと思ったので、それに向けて必要な支援を整理し、奮闘していこうと思った。
- 常に当事者を大切に、生活を第一にみんなで考える会議だと感じている。現在は保護者の立場だが、いつ当事者になるか分からないし、垣根はそもそも無いことに気付かされる。最新の制度について携わっている方からのお話も伺うことができ、社会全体に意識が向いて孤立感が薄れる。道南地域でも何かあればと思う。次回も参加したい。

文部科学省主催「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」
令和5年度共に学び、生きる共生社会コンファレンスin北海道 実施要項

- 1 テーマ 「北海道における障害者の生涯学習～過去・現在・未来～」
- 2 趣 旨 平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえて、学校卒業後の障害者が生涯を通じて学び続けられる社会、共に学び、生きる共生社会の実現に向けて、道内の持続的な生涯学習活動推進のための研究協議や実践の交流等を通して、実践内容の分析・共有、取組の充実を目指す。
- 3 開催日時 令和6年(2024年)2月3日(土) 10:30～16:00
- 4 会 場 札幌市生涯学習センターちえりあ(北海道札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10)
※YouTubeライブ配信を利用したオンラインでの参加も可能
- 5 主 催 文部科学省、北海道教育委員会
- 6 主 管 医療法人稲生会
- 7 参加対象 どなたでも(障害のある方及びその家族、行政担当者、社会教育主事、公民館その他社会教育施設職員、特別支援学校等教職員、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員、企業、NPOその他関係団体や実践に関わる方等)

8 日程及び内容

	10:30	10:40	10:50	11:00	12:10	13:40	15:55	16:00
開 会	第1部			第2部		第3部		閉 会
	(1) 説明①	(2) 説明②	(3) トーク セッション	(4) カフェサボッチャ		(5) パネルディスカッション		
	講堂(6階)			大研修室(2階)		講堂(6階)		

※第1部及び第3部には、手話通訳が付く予定です

- (1) 説明①:「共に学び、生きる共生社会の実現に向けて」
文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課
- (2) 説明②:「本事業の概要について」
北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課
- (3) トークセッション:「北海道における障害者の生涯学習推進～過去・現在・未来～」
NPO法人コミュニティワーク研究実践センター 理事 宮崎 隆志 氏
医療法人稲生会 理事長 土 畠 智幸 氏
北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川 社会教育主幹 尾 山 清龍 氏
- (4) カフェサボッチャ:誰でも参加可能な発表、展示、体験ブース
(お昼休憩を兼ねておりますので、御自由に参加ください。)
- (5) パネルディスカッション:「北海道内各地の実践～過去・現在・未来～」
いっしょにね!文化祭実行委員会 事務局 田 島 美穂 氏
Uスタイル北海道プロジェクト DEI&Sアドバイザー 鹿 野 牧子 氏
NPO法人カムイ大雪バリアフリー研究所 代表理事 五十嵐 真幸 氏
みらいづくり研究所 学びのディレクター 松 井 翔惟 氏

- 9 申 込 令和6年(2024年)1月26日(金)まで
※右の二次元バーコードからもお申し込み可能です。
※当日の飛び入り参加も可能です。



- 10 その 他 当日の写真や映像については、ホームページや報告書等で活用する場合がありますので、予め御了承ください。

令和5年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道

北海道における障害者の生涯学習 —過去・現在・未来—

今年で5回目を迎える共生社会ブロックコンファレンス in 北海道。今回は、これまでの取り組みを振り返り、道内で行われている様々な生涯学習の実践から学び、北海道における共生社会の実現を目指して未来の形を考えます。

日時

2024年2月3日(土)

10:30~16:00 (10:00 受付開始)

オンライン
同時配信
あり

参加
無料

どなたもでもご参加いただけます
※当日の飛び入り参加も可能

参加申し込み方法は
裏面をご覧ください。

10:30~12:10

第1部

同時配信
あり

トークセッション：手話通訳あり

「北海道における障害者の生涯学習推進 ～過去・現在・未来～」

- ▶ NPO法人コミュニティワーク研究実践センター 理事 宮崎 隆志 氏
- ▶ 医療法人稲生会 理事長 土島 智幸 氏
- ▶ 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川 社会教育主幹 尾山 清龍 氏

12:10~13:40

第2部

会場中継
あり

Cafe サボッチャ (お昼休憩～ご自由にご参加ください)

- ▶ 各種展示・体験ブース
(EyeMoT、バリアフリー図書、ミニアイヌ語講座、他)
- ▶ コーヒー & スイーツ
(はるまき、パウンドケーキ、ドーナツ)



13:40~16:00

第3部

同時配信
あり

パネルディスカッション：手話通訳あり

「北海道内各地の実践 ～過去・現在・未来～」

- ▶ NPO法人カムイ大雪バリアフリー研究所 代表理事 五十嵐 真幸 氏
- ▶ いっしょにね！文化祭実行委員会 事務局 田島 美穂 氏
- ▶ Uスタイル北海道プロジェクト DE I & S アドバイザー 鹿野 牧子 氏
- ▶ みらいつくり研究所 学びのディレクター 松井 翔惟 氏

会場

札幌生涯学習センターちえりあ (6F 講堂)

北海道札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10 (地下鉄東西線 宮の沢駅直結)

主催：文部科学省、北海道教育委員会 主管：医療法人稲生会

これまでのコンファレンス...



「ともに学ぶ共生社会を目指して
～社会教育の実践を通じたコミュニティの可能性～」

初年度は「社会教育」をテーマに開催をしました。北海道には、すでにたくさんの「ともに学ぶ」実践があるはず。そんな実践と実践が、「社会教育」「コミュニティ」をキーワードに、緩やかにつながり合う方法について考えました。



2019年度



「コロナの時代における ともに学ぶ共生社会を目指して
～社会教育の実践を通じたコミュニティの可能性～」

「アフター・コロナ」という言葉が聞かれ始めていた2020年度は、あえて第1回のテーマを引き継ぎ内容で開催をしました。「ともに学ぶ・生きる」といった言葉の意味が揺らいでいるこの時代に、私たちには何ができるのかについて考えました。コロナ前後の比較をしつつ、オンラインを活用しながら、今後のコミュニティのあり方について提案し、議論しました。



2020年度



「障害のあるひと ないひと
みんなでひろげよう 北海道の社会教育」

前年度に引き続き、全面オンライン開催となった2021年度。テーマに「みんなでひろげよう」とあるように、北海道各地で行われている11の実践を紹介し、参加者全員でアイデア会議（グループワーク）を行いながら、ともに学ぶ場を広げるための方法を話し合いました。午後には5つの分科会を開催し、分科会ごとに切り口を変えて、「ともに学ぶ」ための方法の検討をしました。



2021年度



「体験！探検！レッツ共生！ウェルカム トゥ ザ マルチバース」

2022年度は「マルチバース」をテーマにしました。障害の有無、障害種別、職種や立場など、私たちの身の回りには様々な「違い」があります。「同じはずなのになぜ違うのか」を課題にするのではなく、「その違いをどう楽しむのか」といった発想で企画をし、11の分科会を探検するようにして楽しむ構成で実施しました。



2022年度

2023年度

「北海道における障害者の生涯学習 ー過去・現在・未来ー」

お申込み

右記の2次元バーコードより必要事項をご入力の上、お申し込みください。
※入力が難しい場合は下記にお問い合わせください。



参加申込フォームはこちら

締切：2024年1月26日(金)まで

※当日は自由な服装でお越しください。

※コンファレンス当日の写真や画像については、HPや報告書等で活用する場合がございますので予めご了承ください。

コンファレンスに関する問合せ

医療法人稲生会（いりょうほうじんとうせいかい）

〒006-0814 札幌市手稲区前田4条14丁目3-10

TEL 011-685-2799

取組 4

障害者の学びに関するニーズや実態、地域の学びの環境に関する調査研究の実施

学校卒業後の学びの場の整備を進めるためには、全道各地で展開される取組の現状及び課題の把握が必要であるため、教育委員会の社会教育担当職員を対象とするヒアリング調査を実施した。その結果については、地域連携コンソーシアム会議において報告するとともに、今年度発行するリーフレットの作成に活用した。

1 市町村の社会教育担当職員等へのヒアリング調査

○目的

道内の障害者の生涯学習活動の推進に係る取組について実態調査を行い、効果的な取組事例を発信することで、各市町村における障害者の生涯学習の推進に向けた様々な取組の展開を図る。

○道内市町村の取組事例

- ・北広島市（石狩管内）「スポーツの秋！みんなのスポーツフェスタ」
ボッチャ、ゴールボール等のアダプテッド・スポーツを障害者・健常者みんなで楽しむスポーツ大会を実施。200人を超える参加者が集まった。
- ・別海町（根室管内）「ニュースポーツ&パラスポーツ体験会」
障害の有無に関わらず誰もが気軽にスポーツできる機会として、モルックやボッチャ等のニュースポーツ・パラスポーツに親しむ場を提供している。
- ・新ひだか町（日高管内）「障がい者乗馬支援事業」
馬との触れ合いや乗馬体験を通じた健康づくりや生涯学習などを目的に実施しており、福祉施設利用者や特別支援学校の生徒に好評である。
- ・せたな町（檜山管内）「インクルーシブスポーツ交流会」
みんなでスポーツを楽しみながら障害への理解を深め、地域の共生と今後の支援連携体制づくりについて考えることを目的に開催する。

2 先進的な取組を実施している施設・企業・団体における取組の現地調査

○国立市公民館（東京都）（6月10日（土））

- ・青年の活動をベースに、障害者本人が加わって展開されている「コーヒーハウス」の具体的な内容や社会教育主事の支援の在り方等の調査

○「いっしょにね！文化祭」（いっしょにね！文化祭実行委員会）（10月7日（土））

- ・ダンス、歌、演奏等のステージ発表と絵画、工芸品の作品展示など、日頃の学習の成果を発表する機会における当事者の生きがいがづくりや活動実態の調査

○「HAKODATE COLLECTION 2023」（函館女性会議主催）（12月3日（日））

- ・障害の有無に関わらず、誰もがファッションショーのモデルとして参加できるイベントの運営の在り方の調査

3 現地調査等の成果を生かした、市町村向けリーフレットの発行

○現地調査や地域連携コンソーシアム会議の協議内容をもとに、市町村等に向けたリーフレットを新たに作成するとともに、次年度以降、リーフレットを活用して、道立の社会教育施設等において、受入体制を向上させる取組を実施する。

令和5年度（2023年度）「障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業」

道内市町村の社会教育担当職員等へのヒアリング調査

1 調査の目的

道内の障害者の生涯学習活動の推進に係る取組について実態調査を行い、効果的な取組事例を発信することで、各市町村における障害者の生涯学習の推進に向けた様々な取組の展開を図る。

2 調査の概要

(1) 調査日及び調査場所

- ・道央会場 令和5年9月21日（木）、22日（金）、北海道立道民活動センターかでの2・7
- ・道南会場 令和5年9月7日（木）、8日（金）、上ノ国町総合福祉センタージョイ・じょぐら
- ・道北会場 令和6年2月9日（金）、オンライン
- ・道東会場 令和5年9月21日（木）、22日（金）、十勝教育研修センター

(2) 調査内容

「各管内における、障害者の生涯学習に関する実態について」

- ・市町村教育委員会や社会教育施設等で行われている取組の概要
- ・連携・協働体制、講座の運営における工夫、取組を継続させる上での課題など

(3) 調査方法

ヒアリング調査

(4) 調査対象

市町村の社会教育担当職員、社会教育関係者 等

3 調査した取組 ※空知・後志・十勝・釧路管内については本報告書の別ページで紹介する。

(1) 石狩管内・北広島市の取組について

- ・取組名 スポーツの秋！みんなのスポーツフェスタ
- ・日時等 令和4年10月15日（土）、北広島市総合体育館
- ・概要 ボッチャ、ゴールボールなどのアダプテッドスポーツを障害者・健常者が共に楽しむことのできるスポーツ大会
- ・成果 200人を超える参加者が、共生社会の実現に向け、障害者と障害者の学びへの理解を深めることができた。

(2) 胆振管内の取組について

- ・取組名 障がい者が講師となるプログラム～みんなが先生、みんなが学ぶ～
- ・日時等 令和6年度実施予定
- ・概要 障害者就労支援施設で専門的な技術を学び身に付けた障害者が講師となる講座
- ・成果 障害者が講師として活躍する機会を創出するため、手話教室やパラスポーツ体験などの具体的な事業企画を考えるなど、今後の取組実施に向けた研修を実施した。

(3) 日高管内・新ひだか町の取組について

- ・取組名 障がい者乗馬支援事業
- ・日時等 通年、新ひだか町ライディングヒルズ静内

- ・概要 障害児・者の健康づくりや生涯学習の機会充実を目的とした、馬との触れ合い活動や乗馬体験
- ・成果 本事業を利用する福祉施設職員から、「乗馬がある日は利用者が特に元気で表情が明るい」という感想が寄せられるなど、学びが日常生活に好影響を及ぼしている。



(4) 渡島管内・北斗市の取組について

- ・取組名 道南サップセッション
- ・日時等 令和5年7月16日(日)、七重浜海水浴場
- ・概要 児童及び車いす利用者を対象に、パドルの使い方をはじめとした、多彩なメニューを体験できるサップイベント
- ・成果 道内で初となるアウトドア用車いすを用いたサップ体験には、障害者も参加し、日頃体験することの少ないマリンスポーツに挑戦する機会になった。

(5) 檜山管内・せたな町の取組について

- ・取組名 インクルーシブスポーツ交流会
- ・日時等 令和4年8月1日(月)、北檜山町民体育館
- ・概要 共生社会の実現と福祉・教育関係者も含め今後の支援体制の構築について考えることを目的とした、障害の有無にかかわらず参加できるスポーツイベント
- ・成果 町内障害者支援施設、学童保育所(支援児舎)等からの参加も得ることで、障害者理解や支え合いの重要性について、地域住民が理解を深めた。

(6) 上川管内・名寄市の取組について

- ・取組名 ふれあい広場2023なよろ
- ・日時等 令和5年7月2日(日)、名寄市総合福祉センター
- ・概要 障害や年齢に関わらず支え合うノーマライゼーションの普及を目的とした、交流イベント
- ・成果 障害者が活躍できる機会を増やすだけでなく、障害者と共に暮らす共生社会の実現に向けて何をすべきか考える機会となった。



(7) 留萌管内・小平町の取組について

- ・取組名 高等養護学校におけるスポーツ体験教室
- ・日時等 令和5年11月20日(月)、北海道小平高等養護学校
- ・概要 小平町スポーツ推進員からの協力を得た、運動能力向上や生徒同士の交流を深めるために開催したキンボールの体験教室
- ・成果 生徒同士が協力して取り組み、基本的な運動能力の向上を図ることができた。

(8) 宗谷管内・稚内市の取組について

- ・取組名 『広報わっかない』の音訳CDの送付
- ・日時等 毎月、稚内市立図書館
- ・概要 音訳ボランティア「声の図書館」が、市内在住の目の不自由な方へ『広報わっかない』や、希望者からのリクエストのあった小説等の音訳活動
- ・成果 市の広報紙やリクエストのあった小説等を音訳することにより、障害者が本に親しむとともに、読書活動に対する興味や関心を高めている。

- (9) オホーツク管内・網走市の取組について
- ・取組名 障がい児・者スポーツ教室
 - ・日時等 毎月1回、網走市総合体育館
 - ・概要 小学生以上の障害者とその家族・関係者を対象とした、卓球・フロアカーリング・フリスビー・ボッチャ等の体験教室
 - ・成果 網走市スポーツ推進員からの協力を得た取組にすることで、障害者やその保護者のニーズに応えた、スポーツを体験する機会を提供している。
- (10) 根室管内・別海町の取組について
- ・取組名 ニュースポーツ&パラスポーツ体験会
 - ・日時等 令和5年7月15日(土)、別海町町民体育館
 - ・概要 障害の有無にかかわらず、誰もが気軽に参加できる、モルックやボッチャ等のニュースポーツやパラスポーツの体験会
 - ・成果 ニュースポーツやパラスポーツを、障害者や青少年・高齢者に広く普及するだけでなく、障害者と健常者の交流を深める機会になっている。

4 調査の結果

(1) 開催場所

開催場所については、教育委員会が実施する講座やイベントの場合は、公民館や図書館等の社会教育施設のほか、公立体育館や学校での実施が多く、社会福祉協議会等の福祉の団体が主催する場合には、社会教育施設に加えて社会福祉施設において開催されることが多い。

(2) 運営、連携・協働体制

運営、連携・協働体制については、教育委員会が実施する場合には、教育委員会職員が社会福祉協議会や福祉部局からの協力を得て行うケースが多い。また、参加者一人ひとりの障害にあった支援や配慮を行うため、保護者の会や特別支援学校と連携・協働体制を構築するケースが多いことが分かった。

(3) 講座の参加対象と形態

講座の参加対象については、障害のあるなしに関わらず、誰もが参加できる講座が多く、形態については、ニュースポーツやパラスポーツで体を動かすなど、比較的取り組みやすい体験活動を多く取り入れ、障害者と健常者の交流の場としていることが多い。

(4) 参加にかかる費用

参加にかかる費用については、大学等が行うオープンカレッジや公開講座を除いて、材料代や保険料などを事業ごとに徴収しているケースが多い。

教育委員会や社会福祉協議会などが講座を開催する場合には、内部人材や地域の協力者を講師に招聘することで、講師謝金を減らし、参加者から徴収する金額を抑える工夫をしている。

(5) 参加者の募集

参加者の募集については、教育委員会が実施する講座については、市町村の広報誌やホームページを活用して周知するケースが多く見られる。

また、障害者やその家族の多くは、友人・知人・家族が参加したり、これまでに講座に参加した方からの口コミを参考にしたりしていることが分かった。

(6) 講座の運営における工夫点

講座の運営における工夫点については、次のような内容が多く寄せられた。

- ①多様な課題に対応するプログラムの提供
- ②誰もが参加しやすい環境の整備
- ③参加者同士の交流の場の設定

(7) 取組を継続させる上での課題

取組を継続させる上での課題については、次のような内容が多く寄せられた。

- ①専門的な指導者の確保
- ②運営体制の強化
- ③講座の内容の充実
- ④効果的な広報のあり方（一般公募で自主的な参加者を募るために）

5 考察

(1) 障害者の生涯学習における障害当事者のニーズについて

障害者の生涯学習としてパラスポーツやニュースポーツ、軽スポーツに取り組む事例が多く見られた。障害者と健常者が共に汗を流し、相互理解を図る場を設定することは、障害の有無にかかわらず社会参加や活躍の場づくりができるだけでなく、障害者の学びを支援する人材育成の基盤ともなる。

しかしながら、様々な好事例はあったものの、「障害者のニーズ」という視点から見ると多くの課題があると考えられる。例えば、障害者の生涯学習におけるニーズの一つに「PCスキルの獲得」がある。現代社会において、パソコンは情報収集やコミュニケーションの手段として欠かせないものとなっており、社会参加や自己実現のための様々な活動のために欠かすことができないと言える。しかし、パソコンを使うための環境整備や、専門的な指導者の確保などの課題もあり、そのような場の設定がされている事例は少ない。

このようなケースからも、まずは障害当事者のニーズをしっかりと把握したプログラムの開発が必要である。

(2) 「障害者の生涯学習」の今後の展望について

本調査によって、多くの連携・協働によって障害者の生涯学習が取り組まれていることがわかった。ただ、現状としては、特別支援学校等との連携によって参加者を確保していることも多く見られるため、障害者自らが主体的に参加できるよう、今後さらに取組を充実させていく必要がある。そのためのポイントとなるのは「障害当事者の参画」であると考えられる。

「障害当事者の参画」とは、障害者が自らの学びの目的や内容、方法、場所、期間などを選択することに加え、プログラムの企画等にも関わりながら、主体的に学習活動に参加することである。そのために、障害者の学びのニーズを把握し、個別化されたプログラムの作成や評価を行ったり、障害者のアクセスしやすい環境や支援体制を整備したりする必要がある。そして、障害当事者の声をしっかりと受け止めた学びの場づくりを進め、障害者が学びの成果や経験を発信でき、社会的な評価や承認が得られる機会を創設することが望まれる。

「障害当事者の参画」は、障害者の生涯学習の質や効果を高めるだけでなく、障害者の人権の保障と社会的な貢献の両立を可能にする重要な要素である。

取組 5

特別支援学校等における児童生徒の生涯学習の意欲向上に資する取組の実施

生涯学習に対する意欲向上については、在学中から学びの場に参加し、生涯学習への意欲を高める取組を継続することや、地域における学びの場の整備がともに必要である。今年度の地域連携コンソーシアム会議では、学校と社会の接続の在り方などについても議論を深め、次年度以降の取組の方向性を確認した。

1 特別支援学校や大学等が地域とともに行う学びの機会拡充の取組

○北海道札幌あいの里高等支援学校

- ・取組名：あい circle
- ・内 容：学科製品の販売、カフェ営業、ステージ発表等、地域の団体と連携・協働して実施したイベント

○北海道真駒内養護学校

- ・取組名：地域を共に進める取組・協働活動
- ・内 容：フラワースマイル作戦、一日防災学校など、地域と連携・協働した、学びと交流の機会

○北海道教育大学札幌校

- ・取組名：キンダーぷらっつ
- ・内 容：大学の教育機能を活用した、運動遊びや季節のイベントなど、障害の有無に関わらず参加できる余暇を生かした講座

○北海道文教大学

- ・取組名：チャレンジド教室
- ・内 容：障害のある児童・生徒を対象にした、学校外の学びや居場所を生み出すための講座

2 卒後のキャリア支援と生涯学習アクセシビリティ向上

○株式会社特殊衣料への現地調査

- ・労働分野におけるアクセシビリティ向上につながる取組について、障害者雇用と働きやすい職場の環境づくりに取り組む企業へのヒアリングを実施して、課題を整理した。

○地域連携コンソーシアム会議（第2回及び第3回）での協議

- ・各種会議や調査において、多くの関係者から学びの場へのアクセスを向上させる重要性を提起されたことから、協議テーマに設定した上で、今後の方策について検討した。

3 特別支援学校の学校運営協議会や障害のある子どもを持つ保護者が集う機会における情報提供

- 障害のある子どもが、在学中から学びの場に参加し、学校卒業後の学びに対する意欲を高めることの重要性について情報提供を行った。